THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年一月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十八號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕女子教育奬勵會〔中外新報〕數十件〔學藝一斑〕○理學一斑〔對譯〕○諺の語譯○勿の語譯〔列女傳〕齊藤孝の傳〔雜記〕女子の教育、矢田部良吉君演述○育兒の種〔前號の續き〕
⊙學校
⊙家庭子女輕患、微傷手當法〔第四十四號の續き〕○婦人の心得〔對譯欄内勿れの意譯〕〔新作物語〕○海上の奇偶〔家政要報〕侍女の事〔前號の續き〕〔御伽草〕六人連の旅○數學問題○考へ物の題○前々號數學問題の答式前々號○考へ物の答

◎女學叢誌

女子教育奬勵會

凡そ社會上の改良ハ衣服、装飾、飲食、家屋等の改良より風俗の改良といひ道徳の改良といひ其他百般のこと何事の改良にてもみな百年の計ならざるハなく一朝にして能く之が改良をなし得べきものハ蓋し甚だ稀なるべし然れども人生ハ五十六十ハ古來稀なりとさへいへるを爭で死後百年の事までをも思ひ計るの暇あるべきなどいひて等閑ならましかバ啻に百年の後のみならず幾千万の年を歴るとも何れの時か社會改良の日あるべき今の世の文明ハありし世の人々の遺せるにて百年の後のことハ今の世に在る人々の思ひ計らずてやハある べき百年といへど一國一社會の生命の上にてハいと短し我が死せる後の世の事なりとて中々にこゝろ長くハあられざるべきなりされバこそ女風改良の事につきても近き頃より之を新聞に雜誌に演説に唱ふるもの出來て余輩もろの背後に從ひ常に世の人の注意を惹起すことに怠らざらんと勉めたれ然るにいまだ有志の人々相集ひて大に實際に婦人教育の改良を施さんと企つるものなかりしハ余輩の甚だ遺憾とするところなりしが此ごろ傳へ聞く所に據れば世に勢力なる人々相會して女子教育奬勵會といふを創立せらるべしといへり近きころに致り女風改良の設を唱ふるもの出來て大に世の人の注意を喚び起したるハ是まで婦人教育の闇の夜の黒白もわかぬまでに暗かりしが稍東天の曉近き空となりしに均しく今また同會の創立あるハ恰も女子教育の上に曙の光を放ちたる思ひのせらるゝなり扨て同會の目的ハ日本の貴婦人をして歐米諸國の貴婦人と同等なる教育を受けしめ世事交際の法より家事經濟のあとに至るまで大に從來教育上の弊風を改めんとするに在りて此會の創立を思ひ立れたるハ常に教育上に實驗ある内外の學士教官達にして現に外山氏とジッソン氏との二君が發起人の主幹となりて創立趣意書を發せられたるなりといひその會員中にても伊藤伯爵を始め參らせ渡邊洪基、陸奥宗光、富田鐵之助、末松謙澄、外山正一、穂積陳重、神田乃武、矢田部良吉

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其他[illegible]で教授の任に當らるゝ諸君并に岩崎彌之助、澁澤榮一、福地源一郎、河田小一郎の諸君の世に名望あり經歷ある方々なれば其目的の完全なると其方法の宜きを得たるとは余輩の喙を容るゝべきに非るは固りの事なるべし抑々教育は外面の虚飾に流れず理學の原理に基きて實際に適用する事を先にずるは今日の新主義なり同會にありては先づ東京に女子高等教育の學校を設立し外國の女教師を聘へ寄宿生徒をも置き通學生徒をも許し普通の教育より行狀、服裝、家政、看保等の事に至まで總で歐米の生活を學ばしめ洋行して學び得べき程の事は居ながら之を學び歐米の貴婦人に比き成果を期するにありといへば能く教育の新主義に則れりといふべし左りとて詩歌音樂踏舞のごとき文學美術上の事もまた文明の花なり餘暇を以て之を修め交際上の便となさずんばあらざるなり同學校は貴婦人の倶樂部或は集會場にも用ふべき筈なりといへば啻に實用の一邊に偏せざるを知るべし我邦の婦人は體育を顧みずして運動の事なきは屢々余輩の論じたる所なるが同學校には貴婦人及び生徒の爲めに戶外の遊戲に適當せる庭園をも設くべき筈なりといへば體育の事に至りても亦之を忽せにせざると知るべきなり斯の如く完全の主旨なるがゆゑに

伊藤伯爵に於ても深く此會の創設を賛成あらせ現に去る十二日の午後七時より前に記したる會員の方々を官邸に集へせ同會創立の事學校設立教師招聘の事など議り給ひ會員より同會の會長を伯爵に依賴ありしと會長には親王の御一方を乞ひ奉つるこそ宜けれとて伯爵には之を辭させたれども評議員長たる事をば許し給ひ茶菓など饗應ありて十時比各々退散せられたりとぞ聞えぬ扨其席に於て資金の事を議せられたるに初め六万圓とありしを增額して十万圓と改め之を五ヶ年に募集する事となし岩崎澁澤の諸君も資金募集の事に盡力あるべしと定りたる由なるが凡そ世の中の事は何事をなせばとて先つものは資金あり況て斯の如き事業にありて資金充分ならざれば其の功を永遠に期すると難かるべし且又私立學校を維持するの費用は年々資金より生ずる所の利子を以て支辨するより良きはなかるべし歐米に於ても多く然りと聞く左らば今此資金を增額なして十万圓と定められたるは左る事ながら余輩は未だ以て充分なりとはなさゞるなり然ども此會の會員中には名望ある人々多く岩崎澁澤諸君の如きミリヨンチイルもあるからには何ぞ資金の欠乏と憂ふべき余輩は此會の益々盛大に赴き社會改良の上に於て其功の著からん事を望むに外ならず

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

◎御發輿　豫て仰せ出されたる如く皇太后宮には一昨十三日午前八時の別仕立の滊車にて御發途あらせられ京都へ行啓あらせたり同日横濱に着せたるや否御料の御車にて宮内省御用邸へ着御御休憩の上裏波止場より小蒸滊曳船の桐號にて浪速艦へ召させ十時に解纜遊ばされたり扨て行啓の御道筋は横濱より海路神戸を經て京都へ着御還御の節は伊勢路を經て志州鳥羽港より海路を還御遊ばさるゝよし

◎大禮服　本年朝拜の御摸樣を承るに皇后宮には從前五ッ衣を召させられ來りしが本年よりは洋制の大禮服を召させられ侍立には典侍幷に伊藤宮内大臣の夫人宮内省御用掛北嶋いと拜賀の向には松方大藏大臣、榎本遞信大臣、吉井宮内次官、樺山海軍次官、蜂須賀全權公使、花房全權公使、香川皇后宮大夫、高崎東京府知事、海軍省雇佛國人ベルタン氏等の夫人にて何れも同樣大禮服を着せられ例年の舊觀を改め頗る壯麗に見受けられしよしなり（本月八日日々新聞）

◎婦人の叙位　中御門良子、滋野井在子は正五位に外山淸子は從五位に孰れも去る八日に叙せられたり

◎踏舞會　會員の方々には去る十二日午後六時より鹿鳴館に於て初會を催ほされたる後洋食の饗應もありて内外の貴婦人令孃うち集はれいと盛會なりしと聞く

◎井上伯及び同夫人の夜會　同伯及び伯爵夫人が主人とならせて昨十四日午後九時より内外の貴顯貴婦人を霞ヶ關の官邸に招待ありて新年宴會を開かれ來會の貴女紳士達にて席上滑稽演劇の催ほしなどもありていと盛んなりしよし扨て席上滑稽演劇の外題は吸物鉢（佛語にてスービエール）一幕、小春日和（レテー、ヅ、サン、マルタン）一幕、二人聾（ヅー、ソール）一幕にて演者はプランケット夫人、ベルタン夫人、ミースペイン貴孃、ベルトー少佐、ブルガレー君、ウアンデポルデル君等なりしよしその筋書翻譯の寫しを舍友より寄せらるゝ約あれば次號に掲ぐべし昨夜の夜會は原來伯爵御夫婦私上の宴會なるがゆゑ靈南阪の自宅に於て催ほさすべき筈なるを左ては庭園の手狹なるが爲め斯く官邸にて催ほさせたる由なるがさりとても尙ほ廣しといふほどにもあらず殊には右の小演劇の催ほしもありて舞臺などに場所とも塞がれ御夫婦平生に交らする人々を漏れなく招待あらする譯にまゐらずとていと遺憾さことに思ぼしたるよしに聞えぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○夜會と宴會　大山伯並に伯爵夫人には來る廿七日午後九時永田町の官邸に朝野內外の貴顯紳士貴婦人がたを招きて夜會を催ほせらるゝ由また榎本遞信大臣並に同夫人は去る九日の夜各大臣及び夫人がたを向嶋の別莊に招きて饗應せられたるよし又去る五日は海軍々醫會幷に愛生社との合併にて午后二時より水交社に於て本年の初會を開かれ高木海軍々醫總監、同夫人、加賀見海軍大監、同夫人、川村海軍大監、同夫人等を始め男女併せて凡そ百十餘名來會あり（演說をなしたる婦人ありと聞けど誰なりしかを知らず）夜に入りては今度同社に新設せし舞踏場に於て十組づゝの舞踏などありて十一時頃散會せられたるが來會の婦人がたの三分の二は洋服にて中々の盛會なりしよし

○婦人洋食會　の會員は去る九日鹿鳴館に於て本年の發會と開られ同日の幹事には高木海軍々醫總監の夫人が當選せられ會せられたるもの凡ろ四十餘名なりしと聞く

○丁亥會　樺山海軍次官、眞木同中將、井上同少將、高木同軍醫總監等の發起にて今度題號の會を設立し毎月土曜日每に會員の婦人方を集めて舞踏および唱歌の演習をなさしめらるゝよしなり

○美術學校　文部省よてハ今度府下に於て同省直轄の美術學校と設立し專ら我邦の美術を研究せしめんとて目下協議中なりとかいへど眞僞ハ知らず

○踏舞場開き　青木外務次官の官邸へ新築の踏舞場ハ昨年中に落成せしを以て來る廿日午後四時より舞踏會の會員がたを招き新築開きの宴を張らるゝよし

○婦人矯風會　ハ去る十一日赤坂榎坂町の會堂に於て本年の發會を催ほし席上祝詞演說等もありしよし

○共立女子職業學校　にてハ裁縫、編物、刺繡、押繪またハ造花、紙細工等の技術を脩むる生徒の數も追々多くなり且つ上達せしものも少なからざるより市中の商家より製造の注文を受くるまでになりしを以て右の製造に從事する生徒へハその純益金の半額を與ふることゝなり生徒ハ益々勉勵するよしに聞く

○金聲學校　棚橋絢子等の主唱に係る同學校ハいよ〳〵芝公園地六十三號地へ建設せしにより本日開校式を行はるゝよし同校ハ幼稚園を卒業したるもの及び貧困の子女を敎育し英語學とも授くる筈なりといふ

○佛語女學校　前號にも記したる下六番町の同校ハ本日開

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

校せらるゝ由なるが既に入學を申し込みたる貴孃がたの數五六十名に達したりと聞く

○婦人編物會　の生徒は追々技術上達して帽子肩掛其他何品にても手際よく出來傍ら英語學も餘ほど上達したる由

○産婆學校の協議　東京產婆の學校にては近來府下にて產婆の營業をなすものゝ中には御守を出しなどしていはれなく產家より金錢を貪り取るものあるは同業者中の名譽に關することなれば產婆の組合を立てゝこの惡習を除かんとの意見を有する女子もありとかねてその方法に就き目下頻りに協議中なりといへり

○附錄　前號へ附すべき銅板の附錄は本誌に添て進呈す

◎學藝一斑

○理學一斑

（第十九節）重さの原因及び引力の事　何故に總ての物体は重さを有することとなるや少しも解し得がたき事どもなり物体は重力の定則に由て落つるにもあらずまたその重力（グラヴヰテヰー）は何の爲に落つるかを示さず必竟前にも述べたるごとく重力（グラヴヰテヰー）とは重さの名目にして重力の定則に由りたゞ如何に物体は相互に近寄るものなるやと知るべけれども何故に然るかと知る事能はず

重力とは乃ち引力のことにして地球が物體を引けばこそ物体は地上に落つるなれとは常に人のよくいふ所なれども引力とはたゞ相互ひに引くといふより外に意味なくして縄など引張る時は相互ひに引く力の外に今一つ見る可らさる機械あることを了解するべし

また重力とは力（フオールス）なりといへり力とは普通によく用ふる語なるが如何なる意味なるかを說明さんに人が物を壓へ或は動かさんと欲する時は之を押し或は引くに力を出すといひ角力取りは力を爭ひ球を投げるものゝ力はその球の速力に現はるゝといふ

然らば力といふことは物を壓し或は動しまたは壓さしめ或は動かさしむるところの物をさしていふ名なり故に重力とは物体にて物体を支ふる時はその物の壓力を感せしむる物乃ちその壓力の原因なりまた支ふる物なき時はその物体を地球の中心に向つて移動せしむるもの乃ち移動する原因をいふなり然れども前に解し得がたしといひしは卽ちこの原因の事をいひしなり

（未完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎對譯

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

A great ship needs deep waters.
㊀ ㊁ ㊄ ㊂ ㊃

〔意譯〕大な船ハ深き水を要す

DON'T (NASUEKARAZU).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T wear ear-rings that draw down the lobe of the ear. A well-shaped ear is a handsome feature; but an ear misshapen by the weight of its trinkets is a thing not pleasant to behold.

DON'T wear diamonds in the morning, or to any extent except upon dress occasions.

DON'T wear many trinkets of any kind.

〔箴諺の語譯〕㊀大ナル㊁船ハ㊂深キ㊃水ヲ㊄要ス
〔勿の語譯〕㊀耳㊁の㊂耳珠ヲ㊃㊄引下ル㊅所ノ㊆耳環チ㊇着る㊈べからず●㊀容よき㊁耳ハ㊂奇麗なる㊃形容デ㊄ある㊅併しながら㊆夫の㊇飾物㊈の㊉重さニ(十一)由て(十二)醜くなりたる(十三)耳ハ(十四)見る(十五)べく(十六)快よく(十七)なき(十八)物デ(十九)ある」●㊀朝ニ㊁於て㊂或ハ㊃㊄着服の時ニ㊅於てヲ㊆除き㊇或る㊈廣りニ㊉まで(十一)ダイヤモンドヲ(十二)用る(十三)勿れ●㊀或る㊁種類㊂の㊃多の㊄飾物チ㊅用ふ㊆べからず

◎列女傳

○齋藤孝の傳

幼くしては親に從ひ成長りては夫に從ひ老ては子に從ふとか古くよりいひ傳へて婦人の三從の道とか嚴しう敎へたてしからに養育すべき親の貧しく窶々しき睦しうすべき夫の心ざまよからで末遂ず別れたる養ふべき子どもの絶てなき或はあり甲斐もなき病人となれるなど依賴べき事の違ひもてゆく時はせむすべなく悲きめを見さま〳〵に零落はふれ行も皆此敎育の道に背けたるゆゑにこそありけれ然れば婦人ならむからに身に相應しき職業をならひ學ばゞ親をも養ふべく夫をも助くべく又我子を敎へ育むにも便よかるべきに然る眞の敎の無き世には身を絲竹の細きたづきによせ愧かしき遊女のむれに入りて僅に親夫または子を養ふもあるは卑しむべく貶しむべき事なれども如何せむ職業を知らぬ者のうへには是も亦せむすべなかるべければさる類ひとむげに打棄むは情なきわざなるべしとて聞がまゝに記すは深雪つむ越後の國蒲原郡攝津といへる所にいと貧しき農夫あり齋藤金八とて妻は早く世を去て娘お孝と只兩人わびしき年月を送りぬ金八は星を戴きて出で

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日影に後れて歸るまで田畑の業に心入るれど小作とて人より預れる地のみなれば秋のたのみも甚薄きにひとゝせ此小作料のことにつきて地主に歎き乞ふ事ありて誰も〳〵此事とゝのふまじくば何れの里にも往わかれむなど固く約しつゝ村擧りて地主に言入れしに頓に其乞ひの許されざるのミか集會にあかし暮して多くの月日をあだに送り是が爲に少からぬ入費とつのひし上に金八は病氣にさへ罹りしかば果は其日のたづきにも盡てせむすべなきに斯らましかば多くの人の列には漏るともありし地主の田畑に耕したることそ遙に優りたれなど悔い歎けば今更におのれのみは先例のまゝにて異存なしと云むも流石にて只此事の落着ほどをいつかと待つに待ぬ日數の移るにつけていとゞ貧しさ堪へ難くなれるにお孝は十四といふ齢にて容貌のあてに美はしきのみかは名に負ふ孝行のこゝろいと深くてかく苦しきなかにも薪を拾ひ草を刈てはづかのあしに代へなどさま〳〵の心盡しに辛く其日を送れど今は餓ゑも死ぬべくなれるに斯と心に覺悟せしにや父の前にゐざり出つゝ搵袂の袖にあまたゝび涙おし拭ひあがらふ久しう斯たづきなくて苦しきは小作とやらむの紛紜よりとはいへ歎きこふ事の聞かれしとて人の田畑にたつとは毫もことに違はぬは早晩とまた

も憂きことの廻り來ずとしも定めがたし斯る時さゝやかなりとも所有地のあらましかば如何ばかりの心強かるべきに僅の田畑もなく我がたつきの悉皆を人のものに委せおくはいと〳〵便なきわざならずやされは云へどから朝夕の烟だに立てかぬるなかにろの心がまへせむは容易からぬとながら遠き行末のことと思ひはあれば此の儘にてはえ有るまじきなるべし新潟三條のほとりの遊女となれば多くのこがねの得らるゝとの聞きぬさるは容麗はしきかたち人の上のことならめど恐ろに歎きこれど妾の身をもても何程かは得るよしあらむ假令思ふまゝにことと調はで田畑を買ふまではあらずとも兩人れなじ枕に餓ゑ死なむには優りぬべしそのつとめとやらむいふことの如何に辛う苦しくとも父上の生命を助けまた我が存命ひみちの立ち行くべき事なれば堪へ難しとも思はじかし只妾が願ひにまかせて疾此貧しさと遁れ賜へとかき口說と聞く金八のこゝろ如何許ならむ窶時は物もいひ得ずよゝと打泣きて親は子を養ふとやくとすといふに我甲斐なされよき衣着せうまきをし物食はそる事さへせず夫だにいと悲しきに果は身を苦しき海に沈めても此親をうかばせむといふは殊勝とも忝けなしともいふべき詞もあらずよしや草葉におく露の夕べをまたぬは

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のなき身なりとも子を苦しめて助かるべき道もとめむハ本意ならずと切々承引かぬをお孝ハなほとざまかうざま道理を盡してこへば今に辞ミ兼てろがいふ儘にまかせつ然りとも新潟三條わたり杯にやらバあひ知る人に逢ふまじきにもあらず切ハ甚愧かしき限なれバ折々の音信せむに不便なりとも少しく隔たれる地にゆくこそよかめれといへバお孝も寔といふまゝに軈て家財雜具の殘れるを人に預けてさゝやかなる路費とゝのへて親子涙ながらに家を出でゝ陸奥の伊達郡藤田といふ處よ知る人あるをたよりて思ふよしを語らへば幸ひに此驛の金澤樓といへるまさるべき遊女一人ほしといへばとて打連れて往ぬ斯る折にハほど／＼によき衣

二十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

着せ見にくからず粧ひ立てゝもくが例なれど然る事もせず乱れたる髪に黄楊の小櫛さへさゝず針目多き綿衣の肩のまよひさへ繕はぬを着たれど自然なのめならぬ方に見ゆると心ぞへの優れて哀れに聞なさるゝによりてにや樓主の意に叶ひければ百圓の前借にて不足ならずと云ば只今たゞ取極めてむといふにお孝はこよなく悦べど金八は餘りにゆくりなく大金を得ることよと驚きて頓には答へもせぬを知る人も諫めお孝も勸めて證書などの事漸にとりしたゝめて其樓にそみつく事と定めしと

（未完）

◎雜記

左の一篇は去る九日一ッ橋外なる帝國大學の講義室に於て開きたる大日本教育會の常集會に於て矢田部良吉君の演説せられたるを舍友が筆記し同君の閲を經たるものなり

○女子の教育　　矢田部良吉君演述

余は女子の教育の事に就て聊か鄙見を陳述する積りなるが生憎聽衆中に一人も婦人の見えざるは頗る遺憾なり殊に本日は朔風起りて寒氣酷だ強ければ演説者も聽衆諸君も共に困難なるべし尤も昔は螢を聚め或は雪の明りを取りて書を讀みて大に苦學せし者もあることとなるが余は何もそんなに肉體を苦しめて學問するには及ばぬ事と考ふるを以て苦學は甚だ嫌ひなり蓋し惟り余輩のみに止まらず諸君とても定めて之を好まざるべし此故に此會場に來りて演説する者も聽聞する人も共に多少學問上に裨益を與ふることとなれども斯る凜寒の日には聽衆諸君も辯士も痛く寒氣の刺撃を受けて肉體を苦しむれば只今演説するは平生嫌ひの所謂苦學を爲す譯ゆゑ余の演説は寧ろ輟にしやうと思ひしが一旦演題を出して今更いやとはどうよくにして是亦遺憾極まる次第なれば余は止むを得ず寒さを忍びて一應演説すべし諸君も亦寒さを耐て須臾靜聽せられんことを希ふ猶ほ豫め諸君に向て一言申陳んと欲するものあり是は他にあらず方今我國に於て教育上の一大問題は女子の教育を改良せんと云ふに在るを以て近來我國に於て發刊する新聞紙及び雜誌等は邦語を以て記するものと歐文を以て記するものとを問はず皆孰も此問題に就て種々の論説を掲載せるが其の謂ふ所は一應尤もの樣に聞ゆれども余の所見を以てすれば或は甲點より論ずるものあり或は乙點より論ずるものありて各々論點を異にし孰れも一方に偏せざるものなきがゆゑに只今余が陳述せんと欲する所も他の一方の論者が聞ときは矢張

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一種の僻說たるを免れざる譯にて勢如何とも致方なき次第なり然れども諸君に於て余が僻說中に多少取るべきものありとせらるゝならば余は之を以て大に滿足するなり余は獨り己れの說のみを以て完全無缺と云ふにあらざれば說の當否は諸君の判斷に任かするの外なし諸君之を諒せよ

偖是より愈々本題に移りて申述べし我國には往古女子の教育は更になかりし樣に考へる人もあるなれども女子にして紫式部若くは清少納言等の如き學問もあり智識もありて天晴なる才學兼備の人物が輩出したるを視れば婦人にして文學に長ずることを得べき機會のありたるとは確に推測せらるなり何となれば斯の如き名婦人は偶然に出るものにあらずして已にその時代に於て女子の教育に心を用ふる人ありて紫式部清少納言等も夫に薰陶せられ遂にその名を後世にまで傳へて人々に譽そやさるゝ樣にありたるに相違なければなり降て德川氏の世に至りてもその時代に適する丈の教育は必ず女子の間に行れしが稀には非凡なる婦人もありて男子も中々及ばざる程の者も少からざりし然れども往古にまれ德川時代にまれ孰れも男女の教育をば儒教主義に取りたれば今日の如く駸々乎として日に月に開明に赴くの時世には適當せるもの多るべく

今日男子の教育は如何なる有樣にてあるかと云ふに昔日の教育とは其主義に於ても方法に於ても大にその趣を豹變して四書五經春秋左氏傳等は曾て教育の本尊とも崇しも今日にては之を本尊となす者なしまた習字素讀は幼年子弟を教育するに大切なる教授法なりしも今日の小學校まては朝から晩まで字を習はせるとか且つは意味も解せぬ七六ケしき漢籍を素讀することを教ふる者は之なきあり又昔の聖堂の教育と今の大學の教育とは實に雲泥萬里の相違にして現時その教育方を改めたることは今更云ふまでもなきこととなるが然れども我國の封建時代に在ては儒教主義の教育を以て時勢に適する完全なるものと信じて之を施行せしにより男子との釣合を取りて女子の教育もまた同く儒教主義に基かざれば社會の成立べき樣もなければ矢張女子も同主義を以て教育せしこととなるべし諸君も知らるゝ如く儒教主義に取りたる女子の教育は婦人は生涯三從の道を守らざる可らずとして家に在ては父に從ひ人に適ては夫に從ひ夫死せば子に從ふべしとかいふて婦人は終身頭を上ぐることを得ず又は夫を天と爲す等の事を原則となしろの甚だしきに至ては婦に七去あり抔と申て若し細君が子を持ざるに於ては何の仔細もあらざるに勝手に離別するも差支な

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

き事なりし隨分苛酷な事なり女子の心得方等を記載したる和漢の書物ハ多くこれあるが就中貝原益軒先生の著ハしたる女大學ハ女子の手習する時にも母親が娘を警しむる時にも用ひて廣く婦人社會に行ハれたる良書にして此本を一讀すれば封建時代に在て女子の心得方ハ如何なりしやを察するに餘りあるなり而して此書の如きハ解り易き言葉を以て書き綴りたれば女子を敎ふるにハ洵に良き書物なれども卷中云ふ所のものハ矢張儒敎主義に外ならずして女子ハ其夫を天の如く敬ふべじ夫の奴隷となるべしと敎ふるゆゑ女子の爲めにハ寔に氣の毒なる次第併し實際に於てハ封建時代と雖ども女大學に記したる通りに心得て少しも違ハざりし婦人ハ餘りなかりしならん何となれバ天の如くに敬ふことの出來ざる夫の世に多く之れありたればなり

（以下次號）

○育兒の種（前號の續き）

煉稠乳（コンデンスミルクハ）固より多量の砂糖を含み居るものなるがゆゑ少しも砂糖を加ふるに及バず左の割合に隨ひ温湯にて稀釋べし

煉稠乳一食匙（凡そ目方四匁）を十五倍の温湯に稀釋し温度ハ攝氏三十度より三十七度とし小兒成長の强弱に從ひ多少の和進あれども漸々に温湯の量を減少すべしろの大略を述れば初めの月より三ヶ月ごろまでハ煉稠乳一食匙を十五倍の温湯にて稀釋き四ヶ月より六七ヶ月ごろにいたるも尙ほ餘りに濃厚あらざるをよしとそ即ち煉稠乳一食匙を十倍ぐらゐの温湯にて釋きて飮ましむべしさすれば胃腑を損傷ふ憂ひなし

一回に飮ましむべき分量ハ豫め定めがたきがゆゑ嬰兒の飮みて既に充分なりと思ふときハ吸乳瓶を奪ひ去り然る後新しき白絹或ハ白木綿を淸水に浸しよく／＼注意して口內を淸潔になすべし

牛乳を哺ましむるにハガラスの吸乳瓶を以て與ふるを良とすれども用ひたる後ハ殘りたる乳あらバこれを捨て直ちに温湯或ハ淸水にて罎の內をよく洗ひまた護謨管硝子管ともに捻紙を通して乳滓を除き淸水にてよく／＼洗ふべし

吸乳罎二ツ以上を用意しおく時ハ掃除かた充分に行とゞき甲の一瓶を掃除するに當り小兒の乳を求むることあるも乙の一瓶を以て與ふるがゆゑに都合よけれども若し貧家にしてこの器械を買ひ求めがたきものハ俗に吸飯といふ陶製の吸嘴のつきたる猪口を代用すべし但し前の吸乳罎に附き居るゴムの吸頭の代りに氷蒟蒻を温湯にて柔軟になし糸もて吸嘴の先へ括

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

りつくる時ハ別して哺み易きものなり
扨て序に人工食物の製法を述ぶれバ乃ち左のごとし
白米の粥を造りこれに適宜の牛乳と少しばかりの砂糖ならびに食鹽と加へて稀釋し乳のごとく製そべし
精良の水飴凡そ目方四匁ばかりを少しの温湯にて煉り合せ更にまさ一合の温湯と入れよく〳〵攪和て適宜の牛乳とれよび砂糖と食鹽とを加ふべし
山慈姑凡そ二匁ほどと少しの煉稠乳または粉乳と少しの水まて煉り合せ温湯一合を加へ八分時間ほど煮沸してのち適宜の砂糖と食鹽とを加ふべし
肉羹汁ハ良き肉一斤を細かく切りて養ひ分を盡く出さしむるが爲めに三合ほどの清水に蘸し二時間バかり過ぎて微火に上せまた二時間ばかりも緩々と煮たるのち始めて沸騰しめ直ちに火を去り少時間放冷し美濃紙を以て渣を濾す時ハ透明りたる汁液となるなり扨て適宜の食鹽を加へて與ふべし（完）

○學校家庭子女輕患微傷手當法（第四十四號の續き）

〔剣傷〕そト傷をなしたる時ろの場所に砂或ハ小石などはまりろの他の物質つき居る時ハまづ温湯にて洗ひ布等の物を除きたる後綿撒糸またハ繃纏切と微温湯に蘸し傷所に當て蒸發して乾かざる爲めその上に油ら絹或ハ生彈力脂（譯者思ふに蠻創膏にてもよかるべし）を貼りその上をバたヾ緩く卷きおくべし軟骨塗り藥などハ特別の場合の外ハ却て傷所の焮衝を起さしむることあり
〔火傷〕よハ水氣を含む事あるも皮膚を損せざると及び皮膚を損するとの二種あり何れも手足よりハ體部或ハ頭部の火傷ハ危險なるものにて殊に小兒ハ尙更の事なり火傷の爲めに衰弱する事あるハ最も危險にして左までの痛みを覺えずして衰弱するもの有り是等ハ最も注意を要す火傷の時衣服などを脫ぐにハ皮膚を損せざる樣注意すべし皮膚と損せずして水氣を含む時ハたどろの場所を冷すべしといへどもその場所大なる時ハ餘ほど注意を要せざるを得ず冷すにハ冷水、アルコール水、酢を和したる水、またハ冷琶布を用ひ決して皮下の水氣と出そ可らず

（未完）

○婦人の心得（對譯欄內勿れの意譯）

耳珠を垂れしむる程の耳環を用ふ可らず耳の容よきハ立派なるものなるを却て飾物の重にて其容を變じさるハ甚醜し
朝の間ハ固より着服の時の外ハダイヤモンドを用ふ可らず如何なる種類にても餘り多く飾物を用ふる事あるべからず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○海上の奇偶

尙來園　主人　譯

第三回　世の中ハ助けつ〻また助けられ

冬の夜の長きに寒さと恐ろしさとに堪忍びて痛く心を使ひたれバ Ellison ハ霎時心氣を失ひ昏迷してありしが次第に正氣にたち回り少しばかり眼を開き見るにこハ如何に我身ハ狹くて異りたる船室の中にありて見も知らざるもの〻二人三人臥床の周圍とり圍み居れるハいと不審と思ふうちその一人が柴枯れたる聲して「ヤア Sam(人名)私のいふた通り少し氣が附て來たやうだ」といひつ〻少し開きたる口より匕もてブランデーを注ぎ入る〻にぞ Ellison ハやう〳〵に心附き起き上らんとなしつ〻「こ〻ハ何所でございます」と問へば彼の柴枯れたる聲して「茲ハ Bertha 丸といふ船で…綿を積で Liverpool へ行く船ですヨ、今しがた沈んでしまッた彼の大船の難船したので私どもハお前さんと娘君と助けあげた譯サ、お前さんハ飛び込むだ事を忘れましたのか、今に氣分が沈靜ッたら思ひ出しませう」と聞きて Ellison「少し覺えて居るやうですが何だか氣が遠いやうでよく辨りません、尙少し話て下さい」といへば彼の柴枯れたる聲してこの船の船長なりけるが「不審ハご尤もだ難破船の沈みかけた中に氣を揉みながら一晩明したのだもの—誰でも一時正氣を失ふのハ尤もな譯サ」と後背を撫ながらまたもブランデーを呑せて尙はも語を續ぎ「だがマア宜かッた、もう五分間遲かッたならお前さんも娘君も助からない所であッた、娘君ハ今私の家内が別室でブランケットで卷いて火で温めて居ますと「私の娘でスとへ、私ハ獨身で娘ハない」船長 Evans ハ運轉手の Sam(名)Stubbs(姓)と顔見合せ「ハアまだ本氣でない、自分の娘を忘れて居るのだもの—」といひながら又 Ellison にうち對ひ「今よ見たら思ひ出して分りませう、本眞に奇麗な宜い娘だヨ、彼な娘と持てる親達ハ自慢が出來る、昨夜もお前さんの頸に確さーく捕まッて居たのを漸々離して懷抱したのだ、本眞に宜い娘だ、ナー Sam」運轉手の Sam の點頭けるを見て居たりしが Ellison「フムやう〳〵思ひ出しました、あれハ Clara といふ娘で、同じ乘合の彼の娘の慈母に賴まれたので、私の娘でも何でもない、我身一つでさへ困る中をあの娘を連れてハ誠に困ります「マア何でも今よあの娘を見れやア分る事だ、お前さんと瓜を二つだと家内とも話た事だ「そんな事ハありません、一昨日 Plymouth の 港を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

出るまでハあの母子とも一度も見た事もないのでそ「昨晩お前さんがあの娘を連れて飛込んざ時から全くお前さんの娘ざと思ッて居たが、マア何でも宜しい、可愛がッておやんなさい、昨夜小艇へ飛込んだ彼の醉漢兒のやうでハ他の世話ハ出來ないが」といへばEllisonハ切れ〳〵になりたる地圖を合せ見るがごとき心地せられつゝ漸々に思ひ出し「ア思ひ出した、彼れやア昨晩Lovell婦人を引退て自分で先へ飛んざBoydといふ奴でそ「サウ〳〵眞逆さまに飛び込んでも少しで小艇が覆りさうであッた、誰も搆はないのを此Samが一人で世話をしたんだ、何でも大層醉ッて居た樣子……「そして今何所に居りますか「釣寐床よ寐かしてありま

三十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

そが大層酔ッて居るところへ熱がある様子で丸で無中で居ます、Liverpool へ着くまでは兎ても正氣にやァなれやァしない……「何、Liverpool へ……ぢやア私どもは England へ歸るのですか「左樣サ、そうしてお前さんは何所へ行くはづのです「私はNew Zealand へ向けて出帆したものですが今また跡へ歸るとは不思議な事……「ナーに自分の家ほど宜い所がありますものか「所が私は家も何もないので「何、家を持ッて彼なに可愛奇麗な娘を養育たら何なに樂みの知れやァしない「そんなら何でせう、細君と相談して彼の娘を引取ッては下さるまいか「何して〳〵私どもは Birkenhead の家には七人も子供があるので夫さへなくば彼な娘が欲いと思ッて家内も宜い娘だッて大層欲がッて可愛がッて居りますが自分達の子供で充分だから仕方がない、マァ今にあの娘を見るとお前さんも欲しくありませう」Ellison は獨り歎息しつゝありしが世には友もなく我身を支ふべき生計さへなきは斯る乙女の養育を引受けたらんには誰かは途に暮れて迷はざるべき、前の日誓ひしごとくClara の命助けたりしは此上なき手柄なれどもこの先如何にかせん兎やせせまし角やせせんと頻りに案じ續けたりしがやゝありて心に浮びたるは彼の Lovell婦人のいひたりし乙女の伯母が事なりけるされどやう〳〵にして Chiswick とは思ひ出したれど町の名家の番號さへ今は忘れぬ、何町なりしかさらずば某町と雲時考へ居たるうち十三番といへる事を考へ出し續て公園町なる事をも思ひ出し彼の時婦人が妾には素氣ない人でございますが此娘の大伯母でございますその眞逆に何とかして呉れませう」といひし事をさへ思ひ出しぬこの船の着たらんには急ぎ彼の娘の伯母許至りて事の顛末語りなば遉に否みもなすまじ乙女を手渡しだになしたらんには我事終れりさてこそ後に再びNew Zealand へも向はめ、殘り多からぬも聊かの金錢を持たりし乘船切符も衝突の時には改め見たりしが今は如何にかなり行けんと心附き衣服の裏表ろれか是かと衣囊掻探り見るにそろの儘失はずしてありければ是だにあらば溺船會社より懸合て再び彼の地に航すべし然なり〳〵と心と定めまたも枕に就ける折しも船長の妻なりける Evans 婦人が Clara の手を引つゝ入來りぬ「ご免なさいまし、このお娘が度々お尋ねでござんますからお連れ申しました、本眞に嚴父つァんの所へ來たいのは無理はございませんのサ」といふと聞くよりClara は顏赤らめ「イヽ〳〵妾の嚴父つァんではございませんたゞ Ellison さんでございます、心切な人でございますすば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かり妾は慈母さんの事が尋ねたいから來たかッたのでございます、Ellison さん、貴所は慈母さんと如何しました、早く見度うら」と聞て Ellison は「慈母さんをば如何ともする事が出來なかッた」と口にはいへど心には如何にか痛のりけん Clara は Ellison の前に立たるまゝ顔打護りてぞ居たりしが長くて金色なる頭髪と垂れ縁りなる眼のいと清涼しく今も尚は人形と抱きて放さず幼氣の愛らしき状は得もいはれず顔色少し蒼白たるは道に慈母の事の心に懸ればあるべし Ellison はこの容姿を見ては憫然ごゝろの彌増して今は中々よ如何なる辛苦をも厭はぬばかりなりける Clara は尚ほも合點せず「貴所は慈母さんを助けるといひましたぢやァないか、妾はよーく覺えて居ります、ヨー、慈母さんは何所に居りまそ、慈母さんを如何しました「慈母さんを助たいと思ッてチ心配して居る中にあの醉狂兒が引轉ばして而て船は沈むでしまッたヨ「エ、沈みましたか「ア、ヨ、その時お前は疾氣を失ッて居たから知らなんだが、最早……お前は…慈母さん…慈母さんがないのだヨ、慈母さんは神さまがお連れなされた、武世發番士丸と共に沈みました「それぢやァ妾は獨身で誰もない……たゞ貴所ばかりになッたのかチー「宜しい私が力一杯お前の世話をそるヨ、だがチ哀い事には私の力が足らない、私も世に捨られた不仕合もので友達は一人もなし……「是から妾が友達よなります」と軟弱き手にて Ellison の手を取れるあど氣なさに Ellison は朝日に解る淡雪と共に解くべき心地して乙女の顔うち護りつゝ涙せきあへずてぞありける、乙女は心の勞れにやいつしのスヤ〱と睡りたりければ Evans 婦人は再び入來りて別室に連れ行んとしけるにぞ Ellison は聲曇らせ「マァさうして置て下さいまし餘り能く寐て居りますから今動かすのは可愛さうでございます「それご覽なさい一寸連て行くのでさへお嫌でございませう」といへど Ellison は答もなさゞりしが心の中には實にとこそは思ふなれ

◎家政要報

◎侍女の事（前號の續き）

侍女の職務はまづ綿密に自分の身仕舞をなしたる后第一に主婦の着用すべき衣服を取揃へ何時着替をなすも差支なきやう用意をなし扨て前夜主婦の脫捨たる衣服にブラシユを掛て鈕子、紐などの損じあらば之を繕ひて夫々仕舞おくべし殊に馬上着などの如き重き衣服羅紗の衣服は着用の度毎に檢査をなし仕舞おく前に必ずブラシユを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

掛くべしブラシユを掛るにハ清麗なるテーブルの上におきてなすべし薄き衣服ハブラシユを用ひず能く振ひて塵埃或ハ泥など附たらば古きリンチルの軟かき切にて拭ひとるべし絹物ハ軟かき毛織物の切にて徐々拭きまた汚點あらバ温湯にて粗製アムモニヤ少しばかりを溶しスポンジと浸して拭ひ取るべしボチツト又ハハツトハ鳥の羽を以て塵を拂ひ帽子ゟ附けある花など曲りたれば之を直しまた鳥の羽の延びたる時ハ火に當て銀匕の後背てに縮むべし總て帽子ハ脱くや否仕舞おくべし靴もまた侍女の職務にして常に用ひざる時ハ必す鞋模にはめ置を經濟なりとす繻子またハ羅紗の靴ハ軟かきリンチルの切にて拭ふべし

（以下次號）

○呉服物の景况

目下呉服物の中足利織物ハ少し安直と顯むし相生ものも安直の模様なりしが大巾縮緬ハ品拂底のため少し高く八王子ものハ前號に記したると別段相違なし

○葱大根の騰貴

野菜物ハ昨年より今年にかけて何れも騰貴せしが去る六日の雪にて葱、大根ハ忽ち一割の直上なり

○白米小賣相場

今月八日改正まで一圓に付（一等）一斗四升一合（二等）一斗四升九合（三等）一斗五升四合（四等）一斗六升三合（五等）一斗七升一合なり

◎御伽草

○六人連の旅

散遊亭　園蝶　述

扨て前號ゟお話をいたしました非職の武官ハ何でも出世がしたいソレにハ旅をするがよいと考へて旅立をいたしました途中で彼の大力者と眼力の鋭いものと鼻息の力あるものとまたよく走るものと空氣を寒くするものといづれも一藝に達して居りまする五人のものを從へて六人連にて或る國の都へ參りました、スルト恰ど國王から布告を出しまして國王の娘と走り競をして勝ツたものにハその娘を女房に遣る、また若し負たものハ生首を國王にさし出さんければならぬといふ事でございます、彼の武官ハこの事を聞まして早速その筋へ書面を出し私の家來ゟよく走るものがございますからこの者をして一番國王の姫君と走競らを致させたいと申し出ましたが聞屆けになりまして若しその方の家來が負た時ハその方と家來と兩人の生首を取るぞと申し渡され武官ハ夫でもよろしいとお請をいたしまして彼のよく走るものに申し附けキツト勝んければならぬと其用意をいたさせました扨ていよ〳〵走競ふの日と相成りますと或る隔ツて居りまする所に至り一番先にそ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の所の水を汲んで歸ッたものが勝であるとの事で姫君にもまた此方の男にもコップを一つ宛渡され合圖があると二人とも同時に出立せんければならぬと申すことでございましたが姫君ハ合圖があッても中々急に出だしません此方の男がかけ出してから見えなくなッた頃ようやう／＼出かけましたがその速いまとハ恰も鳥が飛ぶやうでございました、此方の男も急いで水のある所へ參りコップに水を汲んで歸へりかけましたがまだ敵手の姫君ハ來らず少し草臥たから途中で一睡りしやうと考へましたが何も枕にするものがございません見ると其所に馬の白頭骨が轉んで居りましたこれなら堅いから早く目が覺るであらうと之を枕にして其所へ寐てしまひました、此時敵手の姫君も水のある所へかけ附けまして歸りに見ると敵手の男ハ寐て居りますから最早勝ハ我がものだと男の側にあるコップの水を顚覆へしておいて急いで歸りかけました、此方の方でハ武官の家來の中で例の眼力の鋭い獵人が此有樣を見て居りましたが今姫君が勝さうなのに驚いて急いで鐵砲に玉を込め寐て居る男の枕を射る射られて彼の男ハ目を覺し見るとコップに水がなくなッて姫君ハ餘ほど先へ歸りかけて居りまそから驚いて飛び起きまた原の所へ徃ッて水を汲ミ負てハならぬと急いで歸りますと姫君よりハ十分間も早く歸りつきまして姫君ハ負けて悔しがり國王もまた兵隊の女房に遣ッてしまふハ惜しいと考へ如何かして娘を渡さない事にしたいと頻りに工夫を凝して居りましたが何な事を考へ出しますかまた次號に申上ませう

○數學問題(答ハ本月限り)

筆司に二本の筆の價を問ひしに答へて曰く乙の筆ハ甲の筆の價よ二倍しまた二本の價を合そればaなりといふ各々筆の價を問ふ

○考へ物の題(同上)

左の歌ハ日本の歴史中誰を詠せしや

法の水せきとめ兼て逆しまに流せし名こそなしかりけれ

○前々號數學問題の答式

$87\frac{8}{17}\times13\frac{3}{5}=237\frac{3}{5}$ 答二百三十七斤と五分の三

(答者)磐城泉田三郎、美濃笠松撫箏女史、東京今村スヾ、同中村かね、同山下德夫、仙台德永岩男、千葉伊藤たの

○前々號考へ物の答

和氣淸磨(答者)磐城泉田三郎、美濃笠松撫箏女史、山梨田中キチヨ、同松村イシ、小澤シツカ、大坂齊藤雪子、西京伴伊太郎

〔考物出題者諸君に曰す以來答を附記あきものハ記載致さず〕

三十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

藤原明衡朝臣原選
田中從吾軒先生校訂並序

本朝文粹

定價三圓特別賣價金貳圓購客ノ便利ヲ計リ全部二帙ニ分チ毎帙四卷價一圓
但通運遞送料ハ弊堂ニテ辨ス來客ハ其割合丈ケヲ減價ス

此書ハ日本上代文物旺盛ナルノ日ニ當リ王侯ヨリ草莽ノ名家ニ至ル精華萃英ヲ集メタルモノニテ既ニ天下ニ有名ナル書ナレハ茲ニ贅セズ今度田中先生ノ校訂ヲ經テ出板ス本朝文物ノ精英ヲ知ル此書ノ外ニアラザルベシ

小永井小舟先生序
有井範平先生補標

補評

史記評林

定價十圓特別賣價金七圓購客ノ便利ヲ計リ全部五帙ニ分チ毎帙五冊一圓四十錢宛通運遞送料前同斷

史記ノ出版世間ニ多シ然ﾄﾓ此書文字ノ鮮明用紙ノ硬白訂正ノ正確標注ノ詳明評語ノ奇警ナル如キハ他ニ比類ナシ購讀ノ上古今獨歩タルヲ知レ右二書既刻全部御購求モ妨ナシ見本望ノ諸君ハ郵劵二錢送附アラバ進呈ス

文學士高田早苗先生序文
文學士天野爲之先生跋文
經國中山整爾著

日本宗教維持確論

洋製全一冊
定價金四十五錢
遞送料前同斷

佛、耶兩教將サニ競爭ヲ試ントスル今日ニ在テ之レカ理論ヲナス者ナキハ尤モ遺憾ニ堪ヘサルナリ中山整爾君茲ニ感アリ佛教目下ノ衰微ヲ挽回スルノ策ヲ究メ詳カニ之レカ改良策ヲ確論セラル其論旨ノ目的ハ佛教ノ維持策ニアリト雖ﾄﾓ前半ニ於テハ一般宗教ノ理論ヲ究メ宗教ト社會ノ關係ヲ明ラカニシ後半ニ於テ特ニ佛教ノ性質ヲ論シ綿密ニ日本宗教界ノ前途ヲ豫想シ佛教衰頽ノ原因ヲ考査シテ之レカ維持策ヲ極論セラレタルハ實ニ現時必要ノ良書ト云フ可シ抑宗教ノ何物タルヲ知ルハ固ヨリ最大ノ要務ナレハ江湖ノ諸士速ニ購讀セレヨ

京橋區三十間堀
九春堂

〇本年モ開發社ノ事業ヲ賛助アレ

昨年中ニ於テ本社ノ事業カ著ク進歩シタルハ世人ノ熟知スル所ナルカ是レ皆教育家及ヒ其他ノ先覺者カ一意ニ賛助セラレタル高誼ニ依ラスンハアラス弊社員ノ深ク謝シテ措カザル所ナリ今明治廿年ノ新正ヲ迎フルニ當リ本年モ亦諸家ノ賛助ヲ仰カンガ爲メ弊社カ營ム所ノ事業ヲ略擧シテ廣告ニ代フルコト左ノ如シ

●通信講學會

一學科　毎月會費金七錢
二學科　毎月會費金十二錢
以上一學科ヲ增ス毎ニ金五錢增

同會ハ弊社內ニ之ヲ設ケ弊社ニ於テ其業ヲ營ミ通信教授ノ方法ニヨリ政治學、經濟學、英語、法律學、生物學、礦物學、教育學、心理學、倫理學、數理學、（算數學、代數學、幾何學、三角術）女子家政學、教授法、農學ノ十八科及ヒ其他樞要ノ學科ヲ教フル所ニシテ講師ハ皆一時ノ名流大家ナリ而シテ其會費ハ僅々前記ノ如キニ過キス世ニ低價ノ脩業法多シト雖モ決シテ本會ノ右ニ出ツルモノアルコトナシ是レ本會カ教育社會ノ其他ノ狀勢ヲ察シテ公益ノ爲メ私益ヲ後ニスルノ意ヲ寫シタルモノナレハ江湖ノ諸家其意ヲ諒シテ自ラモ入會シ人ニモ入會ヲ勸メテ本會事業ノ盛ヲ助ケ賜ハンコトヲ

東京下谷區練塀町
拾四番地

開發社

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

績文舍

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野銻五郎

大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　魁々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

驛遞局認可